

第38回CIS研究所パートナー会 議事録

日時 2014年6月23日(月) 13時～17時

場所 CIS会議室

サロン 講師 生駒 篤一 様

テーマ 台湾における 日本統治の功罪



会議風景

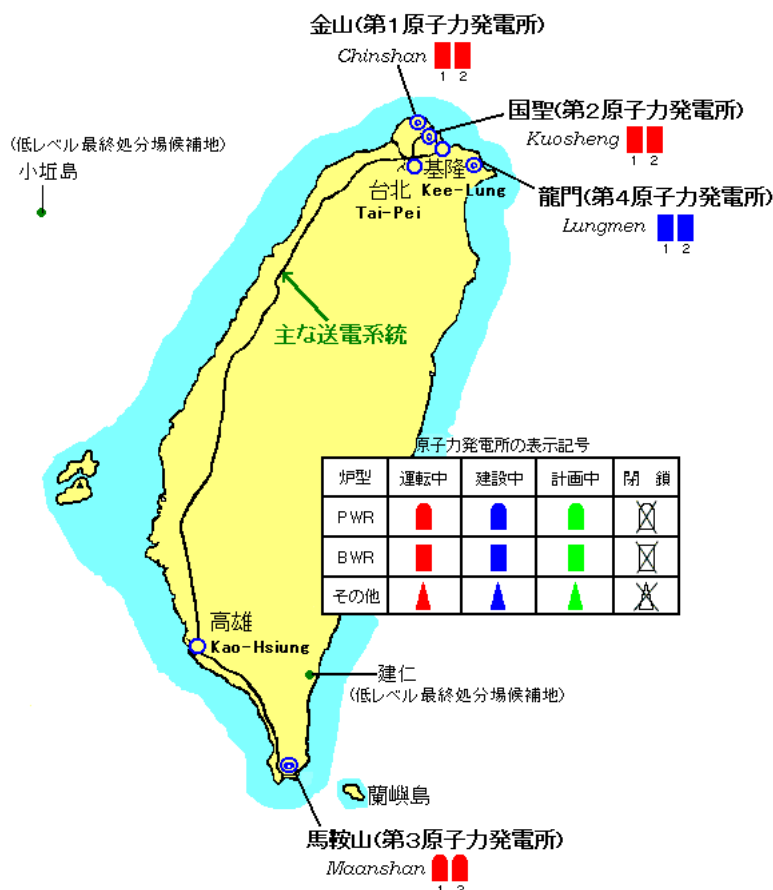
1) 台湾における 日本統治の功罪

台湾歴史 他 知りたかった事

- 1 原子力発電の状況
- 2 中国貿易協定に対する抗議デモ
- 3 歴史上の人物
孫文 蔣介石
- 4 植民地遍歴
- 5 日本統治
- 6 228事件(台湾国内紛争)
- 7 (付録)台湾ナビ 街並カメラ映像
- .1 原子力発電設備と原子力政策

台湾はアジアで日本に次いで 2 番目に原子力発電を導入した国で、1978 年に金山第一原子力発電所 1 号

機の営業運転を開始した。以来、第一(金山2号)、第二(國聖1号、2号)、第三(馬鞍山1号、2号)の3サイト合計で6基の原子炉が営業運転を開始し、設備容量は5,144MWとなった。第四(龍門)発電所の建設は、その後の景気の低迷や1986年に発生したチェルノブイリ事故の影響による反原子力世論の高まりから建設予算が凍結、事実上建設は無期延期になった



下記の出典をもとに最近のデータを追記した。

図3 台湾の原子力発電所の位置図

【出典】藤井 晴雄・森島 淳好(編):詳細原子力発電プラントデータブック1994年、日本原子力情報センター、p.116

2008年に誕生した馬英九・国民党政権では、低炭素社会を実現するため、原子力も選択肢の1つとの見解を示し、非核国家構想の見直しを進めた。第四発電所1号機の営業運転開始は2011年末、2号機は2012年とされ、既存原子炉の運転延長、第四発電所への新規建設が視野に入っていたが、2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故と国光石化科技の大型プラント計画の中止を決めた。

2、台湾学生による立法院占拠

台湾学生による立法院占拠 [2014年](#) 3月18日に台湾の学生と市民らが立法院(日本の国会にあたる)を占拠した学生運動から始まった社会運動である

概要:

2014年3月17日に立法院で、台中間のサービス分野の市場開放を目指す「[サービス貿易協定](#)」の批准に向け

た審議を委員会で行っていたが、与野党が携帯式スピーカーを持ち込んで100デシベルほどの騒がしい言い合いになっており^[3]、議事の進行を担当する与党・中国国民党の立法委員(議員)は、野党に占拠された講壇に上がることさえできなかったため、時間切れを理由に一方向的に審議を打ち切った^[4]。そのため、反発が広がった^[5]。2014年3月18日午後6時(台湾現地時間)ごろ、サービス貿易協定を反対するデモが行われ、同日午後9時過ぎになって、300名を超える学生のデモ参加者が立法院議場内に進入した。

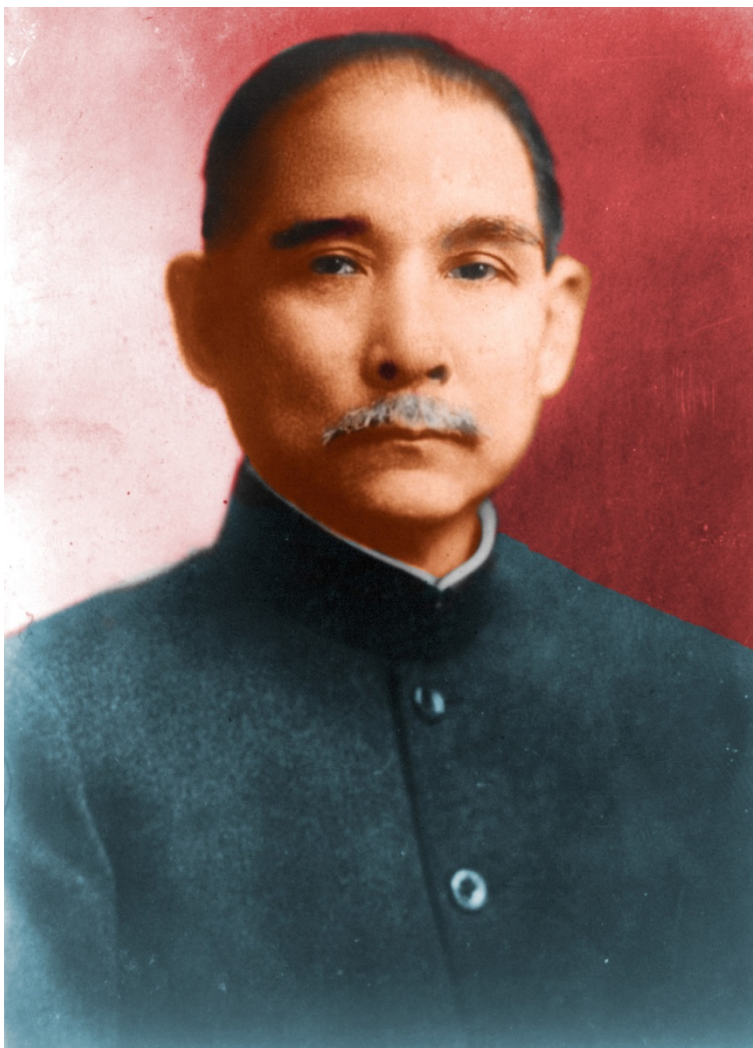


台湾学生による立法院占拠

3 歴史上の人物

孫文(1866年11月12日 - 1925年3月12日)は、中国の政治家・革命家。初代中華民国臨時大總統。中国国民党総理。辛亥革命を起こし、「中国革命の父」、中華人民共和国と中華民国では国父(国家の父)と呼ばれる。また、中華人民共和国でも「近代革命先行者」として近年「国父」と呼ばれる。海峡兩岸で尊敬される数少ない人物である。

中国では孫文よりも孫中山の名称が一般的であり、孫中山先生と呼ばれている。1935年から1948年まで発行されていた法幣(不換紙幣)で肖像に採用されていた。現在は100新台幣紙幣に描かれている。中山北路、南路が有る



孫文 1866年 - 1925年

5、台湾の日本統治(歴史)

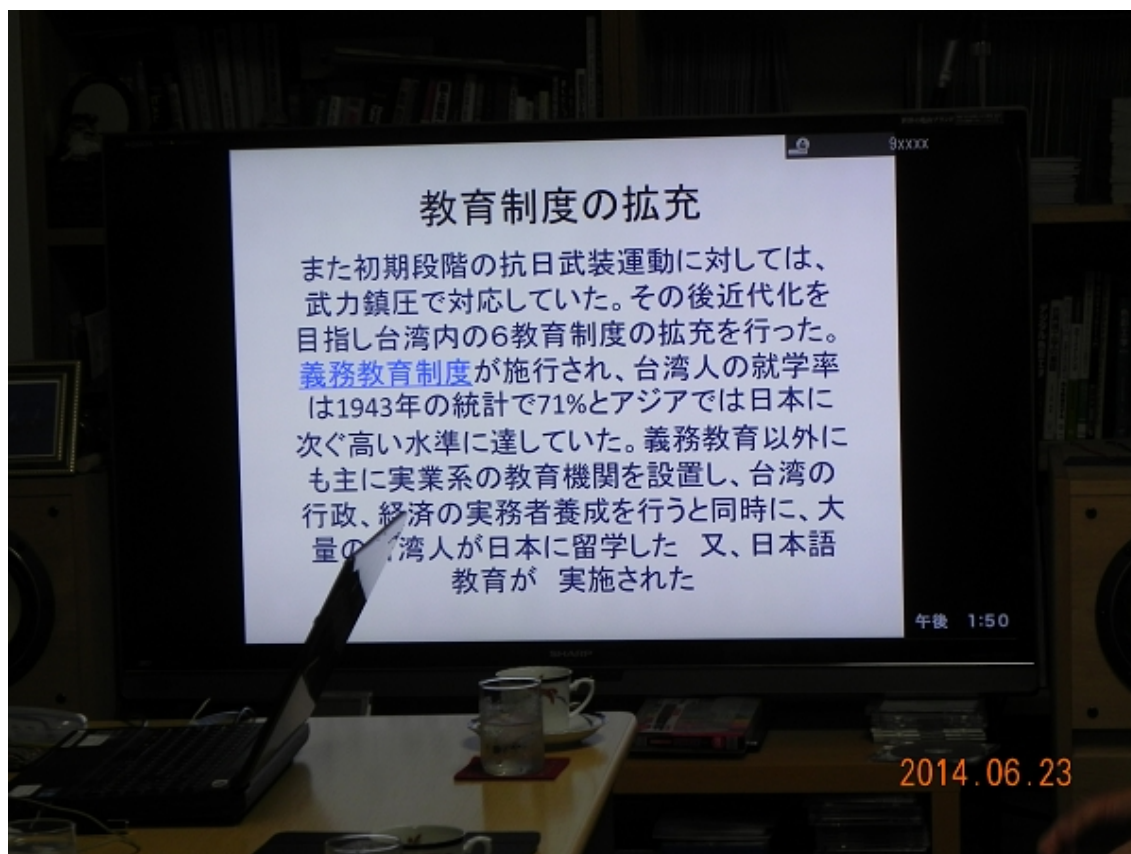
台湾の日本統治時代は、日清戦争の結果下関条約によって台湾が清朝(当時の中国)から日本に割譲された1895年4月17日から、第二次世界大戦の結果ポツダム宣言によって台湾が日本から中華民国に編入された1945年昭和20年10月25日までの時代である

統治は50年の長きに渡った 半世紀の間に

反日,親日の感情が芽生え 現在に至っている 功罪の評価は功績の方に軍配は上がるが!

台湾が本格的に開発されたのは日本統治時代になってからである。1895年5月25日、大日本帝国への割譲反対を唱える漢人により台湾民主国の建国が宣言され進駐した日本軍との乙未戦争に発展した。日本軍の圧倒的に優勢な兵力の前に政権基盤が確立していなかった台湾民主国は間もなく崩壊、1896年に三一法が公

布され台湾総督府を中心とする日本の統治体制が確立した。



会議風景

農業振興政策

工業を内地、農業を台湾と分担することを目的に台湾での1農業振興政策が採用され、各種産業保護政策や、鉄道を初めとする2交通網の整備大規模3水利事業などを実施し4製糖業や蓬莱米の生産を飛躍的に向上させることに成功している。また経済面では5専売制度を採用し、台湾内での過当競争を防止するとともに、台湾財政の独立化を実現している

台湾人と国民党

台湾人を「日本に洗脳された」と軽視した国民党

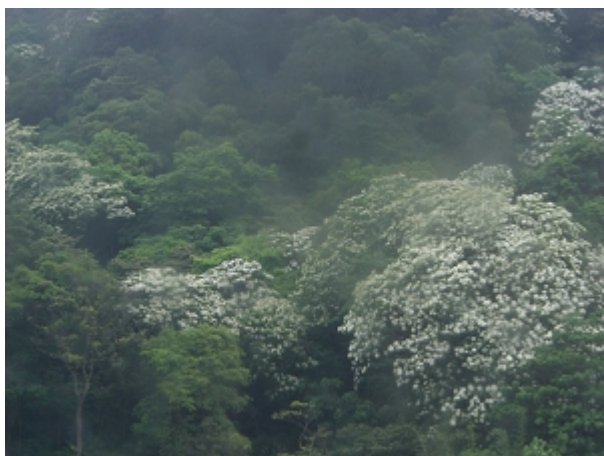
日本の敗戦後、台湾の人々は「祖国」と思った中国に再統一されることを喜んだが、その一方で、台湾を統治するために戦後、大陸からやってきた国民党の人々と台湾の人々との摩擦も始まった。

台湾の人々は、自らを近代化した存在と自負し、日本時代に作られた議会を発展させて自治政府を作りたいと考えた有力者もいた。だが、大陸からきた人々(外省人)は、「台湾人が受けた日本の教育は奴隷化教育であり、日本に洗脳された台湾人の文化や自治意識など、尊重するに値しない」と考えた。しかも中国からきた国民党政権は腐敗しており、日本から接收した財産を私物化する傾向が強かった。

以下、省略

台湾写真集





3) 次回開催日の予定

7月27日(日) 講師 神田 忠起 様

4) 次々回

8月26日(火)

講師 山本 洋一

5) 会議時に9月の予定を決めたいと思います。

9月27日(土)、28日(日)、29日(月)、30日(火)

* (サロン実施は第4週目の土、日、月、火として運用
一人でも多くの方が参加いただける日を選ぶ)

以上